

新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。

謹白



項目名

- 特異的IgE Gly m 4(大豆由来) (依頼コード No.11396)
- 特異的IgE Hev b 6.02(ラテックス由来) (依頼コード No.11397)

受託開始日 2016年2月18日(木) 受付分より

特異的IgE Gly m 4(大豆由来)

Gly m 4は、シラカンバ花粉抗原(Bet v1)と高い相同性を有する大豆のアレルゲンコンポーネントです。大豆アレルギーには、大豆摂取により感作され、それ以降の摂取で発症するアレルギーの他に、花粉症患者が大豆食品を摂取し、花粉抗原と食物抗原の交差反応により口腔アレルギーやショックなどを発症する花粉関連食物アレルギー症候群(PFS)があります。従来大豆特異的IgE抗体は、この交差反応によるアレルギー症例の多くが陰性でした。Gly m 4に対する特異的IgEは、シラカンバ花粉症等における大豆加工食品、とくに重症例の報告が多い豆乳による食物アレルギーで高い陽性率が得られています。Gly m 4特異的IgEの測定は、従来大豆と組み合わせることで、より精度の高い大豆アレルギーの診断が可能になると期待されます。

特異的IgE Hev b 6.02(ラテックス由来)

Hev b 6.02は天然ゴムラテックス由来のアレルゲンコンポーネントで、臨床的特異度が高いとされています。Hev b 6.02に対する特異的IgEの測定は、ラテックス製品に接触することで発症するアレルギーの選別に有用であり、従来ラテックスと組み合わせることで、より精度の高いラテックスアレルギーの診断が可能になると期待されます。

また、Hev b 6.02は、ラテックスアレルギーがバナナ、アボカド、キウイ等の食物アレルギーとの合併例が多いことが知られており、ラテックス-フルーツ症候群を診断するうえで有用と考えられます。

裏面に続きます

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3
総合研究所：〒350-1101 埼玉県川越市の場1361-1
☎ 049(232)3131 FAX 049(232)3132

検査項目検索用
アプリ B-Book



Google play

Available on the
App Store



電子カルテはビー・エム・エル

Qualis
Medical Station

受託要領

検査項目名	Gly m 4 (大豆由来)	Hev b 6.02 (ラテックス由来)
依頼コードNo.	11396	11397
統一コード	5A100-2398-023-023	5A100-2764-023-023
検体必要量	血清 0.3mL	血清 0.3mL
採取容器	B-1→S-1	B-1→S-1
検体の保存方法	冷蔵	冷蔵
所要日数	2～3	2～3
検査方法	FEIA法	FEIA法
基準値	0.34以下	0.34以下
単位	U _A /mL	U _A /mL
報告範囲	0.10未満～100以上	0.10未満～100以上
報告桁数	小数第2位	小数第2位
検査実施料/判断料	110点/144点(免疫学的検査)	110点/144点(免疫学的検査)
備考	【チャート報告書】アレルゲン検査専用チャートの報告対象項目です。	【チャート報告書】アレルゲン検査専用チャートの報告対象項目です。

(判定基準)

	クラス	U _A /mL
0	Negative	0.34以下
1	Borderline	0.35～0.69
2	Clear positive	0.70～3.49
3	Strong positive	3.50～17.49
4	Highly positive	17.50～49.99
5		50.00～99.99
6		100以上

【参考文献】

足立厚子, 他: J. Environ. Dermatol. Cutan. Allergol. 5, 431-438, 2011. (Gly m 4)
 Yagami, A. et al.: Allergology International 58, 347-355, 2009. (Hev b 6.02)